

潜在危険性

火災・爆発

- ・ 引火性・可燃性物質。
- ・ 蒸気は空気と爆発性混合気を形成する。
- ・ 蒸気が発火源まで達し、フラッシュバックするおそれがある。
- ・ 多くの蒸気は空気より重く、地面に沿って拡がり、低い、あるいは密閉された場所（下水道、地階、タンク）にたまる。
- ・ 屋内、屋外又は下水道溝中で蒸気爆発の可能性がある。
- ・ Pと明示された物質は熱せられたり火災に巻き込まれると、爆発的に重合するおそれがある。
- ・ 下水道に流れ込むと火災・爆発の危険がある。
- ・ 加熱すると容器が爆発するおそれがある。
- ・ 多くの液体は水より軽い。

健康

- ・ 吸入や摂取により中毒を起すおそれがある。
- ・ 接触により皮膚や眼に刺激や炎症を起こすおそれがある。
- ・ 火災によって刺激性、腐食性及び／又は毒性のガスを発生するおそれがある。
- ・ 蒸気は、めまいや窒息を引き起こすおそれがある。
- ・ 消火水や希釈水が汚染を引き起こすおそれがある。

公共の安全

- ・ **まず、送り状記載の応急措置照会先に電話する。送り状がない場合や応答がない場合、関連機関のデータベース等に照会する。**
- ・ 直ちに、すべての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。
- ・ 関係者以外は近づけない。 風上に留まる。
- ・ 低地から離れる。
- ・ 密閉された場所に入る前に換気する。

保護具

- ・ 空気呼吸器（SCBA）を着用する。
- ・ 製造者により特に推奨された化学用保護衣を着用する（耐熱性がないおそれがある）。
- ・ 防火服は火災時に限られた防護をするに過ぎず、漏洩時に効果はない。

避難

大量漏洩時

- ・ 風下に適切な避難距離をとる。

火災時

- ・ タンク、貨車あるいはタンク車が火災に巻き込まれた場合は、すべての方向に、適切な隔離距離と適切な初期避難距離をとる。

緊急時の措置

火災時

これらの物質には水と激しく反応するものがある。

小火災

- ・ 粉末消火剤、二酸化炭素、水の散布、耐アルコール性泡消火剤を使う。

大火災

- ・ 散水、水噴霧又は耐アルコール性泡を用いる。
- ・ 危険でなければ、容器を火災区域から移動する。
- ・ 消火水をせきとめ、後で廃棄する；物質を拡散させてはいけない。
- ・ 容器内に水を入れてはいけない。

タンク火災あるいは車／トレーラーの積荷火災

- ・ 可能な限り遠くから、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。
- ・ 消火後も大量の水を用いて十分に容器を冷却する。
- ・ 安全弁から音が発生したり、タンクが変色したときは直ちに避難する。
- ・ タンクから常に離れる。
- ・ 大火災の場合は無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する；これが不可能な場合にはその場所から避難し、燃焼させておく。

漏洩時

- ・ 漏洩しても火災が発生していない場合、密閉性が高い不透性の保護衣を着用する。
- ・ すべての発火源を取り除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。
- ・ 漏洩物を取り扱うとき用いるすべての設備は接地する。
- ・ 漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。 危険でなければ漏れを止める。
- ・ 排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
- ・ 蒸気抑制泡は蒸気濃度を低下させるために用いる。
- ・ 乾燥した土、砂や不燃材料で吸収させ、あるいは覆って容器に移す。
- ・ 吸収したものを集めるとき、きれいな帯電防止工具を用いる。

大量のもれ

- ・ 前方にせきを作り、後で廃棄する。
- ・ 散水は蒸気濃度を低下させる；しかし、密閉された場所では燃焼を抑えることが出来ないおそれがある。

応急手当

- ・ 被災者を新鮮な空気のある場所に移す。 救急車を呼ぶ。
- ・ 呼吸が停止している時は人工呼吸を行う。
- ・ 被災者が（有害）物質を飲み込んだり、吸入したときは口对口法を用いてはいけない；逆流防止のバルブがついたポケットマスクや他の適当な医療用呼吸器を用いて人工呼吸を行う。
- ・ 呼吸困難の時は酸素吸入を行う。 汚染された衣服や靴を脱がせ、隔離する。
- ・ 漏洩物に触れたときは、直ちに流水で皮膚あるいは眼を最低15〔20〕分間洗浄する。
- ・ 被災者を温め、安静にする。
- ・ 物質に暴露（吸入、摂取、皮膚付着）により遅発性の影響を生じるおそれがある。
- ・ 医師に暴露物質名、防護のための注意を通知する。